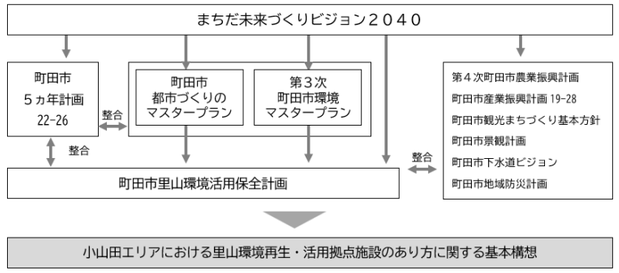
小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想_概要版

本構想は、里山における経済、社会、環境の新たな循環の構築を目指す「新しい里山づくり」を推進するため、小山田エリアに整備する拠点施設のあり方や方向性などについてまとめたものです。

第１章　計画上の位置づけと基本構想策定の目的

１　市の関連計画等



計画上の位置づけ

■町田市５ヵ年計画 22-26
重点事業「里山環境の活用と保全」において、主な活動として「拠点施設の整備」を掲げています。

■町田市里山環境活用保全計画
小山田エリアのリーディングプロジェクトとして「里山を身近に体感するための場の整備」を掲げています。

２　基本構想策定の目的

本構想は、町田市５ヵ年計画 22-26 や町田市里山環境活用保全計画に記載している拠点施設（以下「本施設」という。）の整備にあたり、施設のコンセプトや方針を定め、整備する場所や規模、事業方式など施設整備の要点を整理することを目的として策定します。

第２章　基本構想策定の経緯

１　これまでの取組状況

時期	
2021 年度	・町田市５ヵ年計画 22-26　策定　　・町田市里山環境活用保全計画　策定
2022 年度	・小山田の里山環境活用の拠点づくりに関するワークショップ　開催
2023 年度	・民間活力導入に向けた調査　実施　・地域住民や関連事業者との意見交換会　開催

２　小山田の里山環境活用の拠点づくりに関するワークショップ　実施結果のまとめ

ワークショップでの検討を踏まえ、施設の役割や機能などについて以下のとおり要点をまとめました。

【施設の役割】
①地域住民の憩いの場となり、ちょっとした買い物ができる場所
②来訪者の休憩の場となることで、地域の賑わいや交流の創出につながる場所

【施設の機能】
①地域住民や来訪者が、飲食や休憩ができるカフェ
②地域の活動をつなぐ、地域案内や情報発信のコーナー
③里山を楽しむ、木工体験などができる工房
④商品の開発や地場産品の販売

【整備に適した場所】
・里山に近い幹線道路沿い

第３章　小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想

１　拠点施設の目的

都市の近郊にありながら豊かな自然を有する「まちだの里山」を貴重な資源・資産として将来に残していくため、本施設は小山田エリアにおける「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う拠点となる施設とし、以下の取り組みを推進します。

・里山に人を呼び込み関わる人を増やす。
・山林や農地などの里山資源の活用を推進する。
・子どもから大人まで幅広い世代に里山の学びの機会を提供する。

拠点施設を核とした里山環境の再生と里山資源の活用イメージ

イラスト：本田亮

２　拠点施設のコンセプト

里山に関わる人を増やし、
里山環境の再生と里山資源の
活用を持続的に行う、
「新しい里山づくり」を
推進する施設

３　機能別の方針

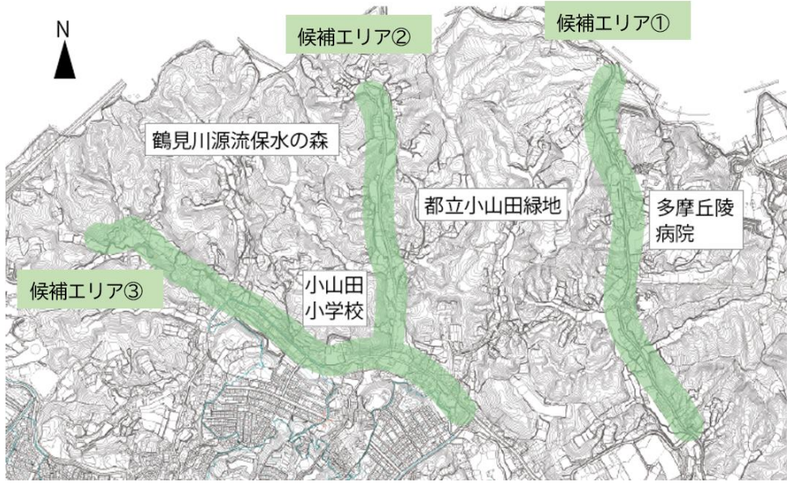
本施設のコンセプトを実現する施設機能の方針を以下のとおりまとめました。

方針１　「新しい里山づくり」を持続的に行うため里山に関わる人を増やす
里山を活用したアクティビティを通じて、里山に関わる人を増やすとともに、人づくりや情報発信を行う。
関連する取組（案）：里山の理解促進（「新しい里山づくり」の周知） 里山を活用したアクティビティ（例）：アスレチック、マウンテンバイク、ロードバイク、トレイルランニング、里山環境学習や農業体験などの体験学習　など
方針２　木材や竹材を資源として活用する
山林をはじめとする里山環境の再生に取り組むとともに、伐採した木材や竹材を資源として活用するために必要な製材加工設備、工房（作業場）を整備し、子どもから大人まで里山資源の循環を学ぶ機会を創出する。
関連する取組（案）：山林の整備（人材の育成）、体験学習（木工体験・薪炭作り体験）、山林の役割や里山・木材を学ぶ機会の提供　など
方針３　地場産品を用いた加工品の開発や販売を行う
里山ならではの加工品の開発と販売を行う。
関連する取組（案）：地場産品の販売、地域農産物等を活かした加工品の開発と販売　など
方針４　地域住民をはじめ、施設を訪れる人の憩いの場となる
地域の人や来訪者、里山に関わる人が気軽に立ち寄ることができる場となり、かつ、地域の生活利便の向上につながる場とする。
関連する取組（案）：地域農産物を活かした飲食（カフェ）の提供　など

4　拠点施設の整備候補エリアと想定規模

今後、本施設の整備にあたっては、「里山に近い道路沿い」に整備することとし、候補地は下図の着色の範囲とします。

なお、施設の規模については、「千葉県鴨川市総合交流ターミナル『里の MUJI みんなみの里』」を参考に検討していきます。

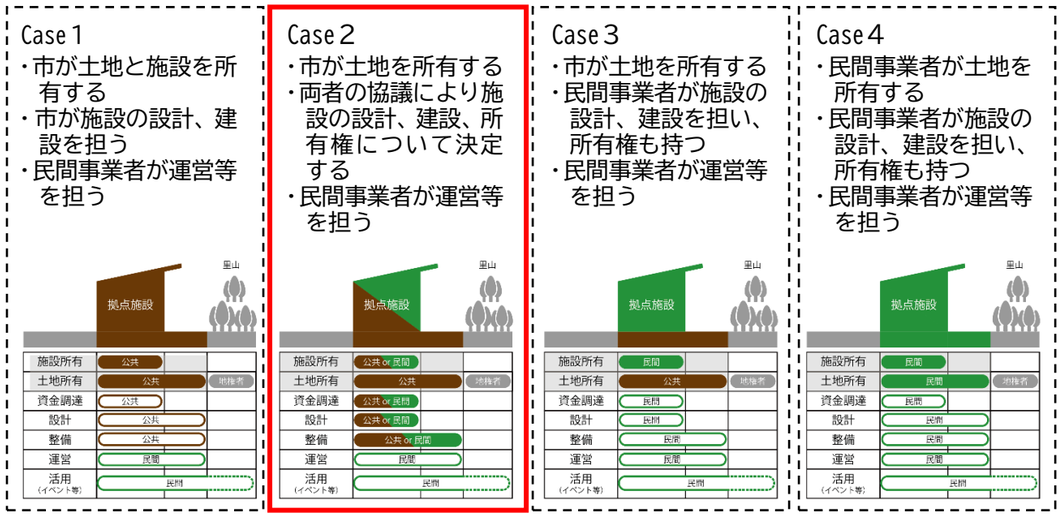


千葉県鴨川市総合交流ターミナル『里の MUJI みんなみの里』

出典：株式会社良品計画 HP

5　事業方式の検討

民間活力の導入検討にあたって、事業方式とポイントを整理しました。事業者選定にあたっては、以下のケースを元に、事業者へのヒアリング等を踏まえ、事業方式の詳細を決定していくこととします。



第４章　基本構想の実現にむけて

本施設において里山における経済、社会、環境の新たな循環の構築を目指す「新しい里山づくり」を推進するためには、民間事業者のノウハウを活用していくことが必要になります。また、本施設の管理運営を持続可能なものとするためには質の高いサービスの提供が求められ、以下の課題に対応する必要があります。

1　事業採算性

施設の運営が持続可能なものとなるには、事業採算性（事業者の収益の確保）が課題となります。

（1）平日の施設利用の促進

事業者の収益を確保していくためには、本施設の周辺に住む人や小山田エリアを訪れた人が日ごろから気軽に利用できる環境を整えていく必要があります。

（2）事業者・地域・行政の連携

山林の整備をはじめとする里山環境の再生と活用を持続可能なものとするために、民間事業者や地域、行政の役割分担を明確にし、三者が連携したしくみを作る必要があります。

2　民間活力導入にむけた課題の整理

民間活力の導入にむけて以下の課題を整理する必要があります。

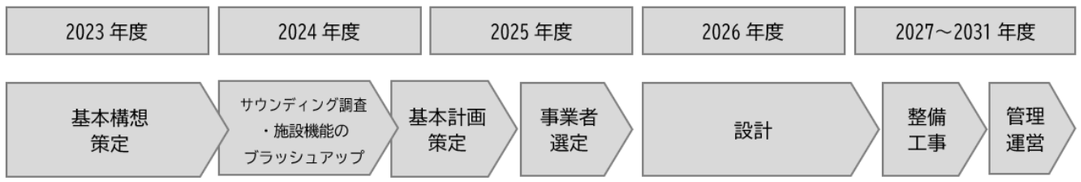
○参画する事業者が持続可能な運営を行うことができるしくみづくりが求められています。
○事業者がより具体的に参画を検討できるよう、整備場所、事業規模を提示する必要があります。
○持続可能な運営につながる民間活力の導入手法や事業方式の検討が求められています。
　事業方式の検討にあたっては、事業の採算性を考慮し持続可能な運営が可能となる事業方式として、第３章「５　事業方式の検討」において示した Case2 を軸に検討を進めていきます。
○地域における街づくりの団体が掲げるビジョンとの整合など、地域の意向とミスマッチのない連携・協働による「新しい里山づくり」を効果的に推進していくことが求められています。

3　その他

○整備候補のエリアにおける都市計画上の制限への適合や関連する法令の位置づけの整理など詳細な検討が必要となっています。

4　想定する整備スケジュール

今後の整備スケジュールは下表のとおりを想定しています。



※事業方式によりスケジュールが前後する可能性があります。